

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	北本 陸	学校名	習志野市立津田沼小学校
実施学年	小学校5・6年 (自閉症情緒障害特別支援学級)	教科	道徳
単元名	「自分らしさ」を見つめよう		

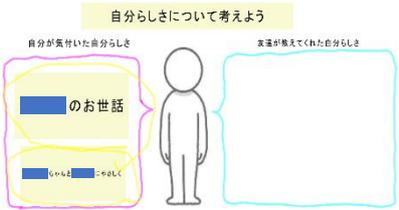
《学びを深めたいポイント》

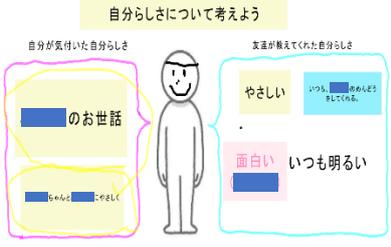
- ・学習指導要領に示されている5、6年生の目標は、「自分の特徴を知り、短所を改め長所を伸ばすこと」である。自己肯定感が低い本学級の実態から照らして、短所についてはあえて話題にせず、自身の長所をさらに大切にしていこうという思いをもつきっかけになることを本時のねらいとする。
- ・本時では、自分自身を見つめ直す機会があるが、自分の良さではなく課題に目が向きやすい本学級の児童にとっては反省道徳になりやすい。そこで導入では、教師が児童全員にそれぞれのよいところを伝える。自分に対して肯定的なイメージをもった上で、「自分が気付いた自分らしさ」を考え、教材に向かう。
- ・展開では、手塚治虫さんが周囲から反発されたり、劣等感を感じたりしてもなお漫画を描き続けた理由や思いに迫っていく。ほとんどの児童は「先生の言葉が支えになったから」と答えるだろう。そこで、「本当にそうだろうか」と補助発問を投げ掛ける。手塚治虫さんの信念の強さに気付かせるために、周囲から冷ややかな目で見られることの辛さを自分事として考えていく。イメージが湧きやすいように、クラスの実態に合わせた例を挙げ、想像させながら考えを共有する(実際に起きた出来事を例にする場合は、特定の児童が槍玉に挙げられないように配慮する)。これによって、長所を伸ばすには、「周囲からの励まし」が必要なのではなく、「何があっても続けたいくらい好きなものがある」ことが必要なのだと気付く姿に共感していく。このとき、「嫌われても諦めなかった」など、努力と強い意思の内容項目にぶれないように注意する。さらに、手塚治虫さんと先生との会話を切り口に、自分らしさは人から教えてもらって気付くこともあることを押さえた後、友達同士で「友達から見たその人らしさ」を伝え合う。
- ・まとめでは、導入に立ち返り、「特に大切に自分らしさはどれですか」と投げ掛ける。発表ノートに書かれている自分らしさの中で、特に大切にしていきたいものに丸をつけ、振り返りを記入する。
- ・自分の長所に気付く活動を通して、自分の長所を大切に伸ばしていこうという実践意欲をもつことを目指したい。また、長所を伝えてもらうことによって、自分の短所とも向き合おうとするきっかけとなることを期待する。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・導入の場面では、人型の白抜きの枠を「発表ノート」で配付し、吹き出しに自分らしさを入力する。ICT機器を活用した導入によって、児童の興味関心を引き付けることができる。また、「グループワーク」の機能を活用することで、児童が自席に座ったまま、画面上で友達のワークシートに考えを記入することができる。これは時間短縮にもなり、後半の価値の一般化に十分な時間を確保することに繋がるというメリットがある。
- ・展開の場面では、児童が気付きや考えを「発表ノート」に記入し、「グループワーク」で共有する。人前で発表することに強い緊張を感じ、思いをもっても表出することを躊躇する児童の考えも共有することができる。また、より多様な意見や考えに触れさせることができるため、他者理解を深めることができる。
- ・まとめの場面では、導入の場面で入力した自分らしさの中で、これからも大切にしていきたいものを選び、丸をつけさせる。単純な作業ではあるが、ICT機器を用いることで児童が意欲をもち、より深く考えることに繋がる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>○「自分らしさ」について考える</p> <p>T みなさんのよいところは… (教師から見た一人一人の長所を伝える)</p> <p>○自分が知っている自分らしさを書いてみよう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発表ノート」を使って、人型のイラストの隣に、自分が知っている自分らしさを記入する。吹き出しを色分けして提示し、片方の吹き出しの中に入力するように伝える。 (例) 赤色の吹き出しに入力してね 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに、どのように入力するかを大型提示装置で示す。 ・書きだせない子には、キーワードを例示しておき、それをドラッグするだけでよいことを伝える。
展開	<p>○範読する。</p> <p>T 他人から自分らしさを教えてもらうこともあるですね。友達と、その人らしさを伝え合ってみましょう。</p> <p>○手塚治虫さんの「自分らしさ」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漫画の神様 ・鉄腕アトム ・火の鳥 ・漫画が大好き <p>T こんなにすごい功績をあげることができたのは、なんのおかげだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の言葉 ・友達の支え <p>T 本当にそうでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に励まされても、毎日とがめられたら諦めてしまう。 ・漫画が好きだったから続けることができた。 <p>T 自分らしさを大切にするとはどういうことだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>何があっても続けたいくらい好きなことがあることだ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で、導入で入力した吹き出しの反対側に、その人らしさを記入し合う。 ・「発表ノート」を活用し、導入と同様に、手塚治虫さんの「自分らしさ」を入力する。 ・グループで「グループワーク」を行い、よいと思った考えに線を引く。 ・再度、発表ノートに考えを記入する。 ・学級全体で「グループワーク」を行い、よいと思った考えに線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ考えも入力してよいことを伝える。 ・書きだせない子には、キーワードを例示しておき、それをドラッグするだけでよいことを伝える。 ・自分とは違う考えに線を引かせるように声をかけることで、より多様な考えに触れられるようにする。 ・考えが変わった場合は赤で入力し、変容を可視化する。

<p>まとめ</p>	<p>○まとめをする。 T 特に大切にしたい自分らしさはどれだろうか。</p> <p>自分らしさについて考えよう</p>  <p>○振り返りを書く。 ○教師の説話をする。</p>	<p>・導入の場面で活用したワークシートに入力された自分らしさの中で、これからさらに伸ばしていきたいものに丸をつける。</p>	<p>・文章を書くことが難しい児童は、丸をつけるだけでよいことを伝える。</p>
------------	--	---	--

《実践を振り返って》

- ・全ての教科に言えることだと思うが、すでに知っている知識を確認したり、単純な記述作業を行ったるときでも、ICT機器を活用することによって、児童の意欲が高まり、より深く学ぶ姿に繋がると思う。
- ・「発表ノート」の「グループワーク」機能を活用すると、発表をしなくても意見交換ができるため、思いをもっても、それを表出することを躊躇う児童の意見や考えを共有することができる。また、発表時間を短縮することができるため、価値の一般化に十分な時間を確保することができる。
- ・「発表ノート」の「グループワーク」機能は、発表の手間なく考えを共有することができるが、友達の考えを読むだけで共有したといえるかどうかは疑問である。声に出して発表し合うからこそ考えが深まる場面もあり、どちらの方が適しているかは児童や教材によると思うので、学習内容や実態に応じて活用する必要があると感じた。
- ・特別支援学級においては、発表することに強い不安を感じる児童や、考えを言語化することが難しい児童など、様々な困り感が見られる。そこで、その特性に応じて活用することで、より主体的に学習に参加する姿を引き出していきたい。